

**残りの者**  
**シャーアル**

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(107号)  
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号  
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

**振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一**  
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子



いいですか。  
神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。  
ルカ17/21

## 信仰：神の国はどれほどに

- 一年で最も寒い時期になりました。皆さんにはお変わりございませんか。いつも小さい群のために祈り支えていただき、心から感謝をいたします。
- 12月半ばに生まれて初めてインフルエンザに罹り、タミフルを処方されて高熱にならず済みました。しかし、その後1ヶ月以上も体の酷い疲労感と眠気に襲われています。
- 外出も控え、横になりウトウトしながらもその合間に静かに祈り、聖書や信仰書を読むという恵まれた時間を過ごしています。
- 先月、ガンの手術をし、その後の治療をご主人の待つフロリダに帰り行くことにした姉妹が、最後まで堅い信仰を持って死と向き合い、父なる神の許に帰られました。
- 家族や友人の死に接すると、私たちは天国や神の国、永遠のいのちなどについて改めて心を向けます。私も今回このことを思い巡らす大切な時間をいただきました。
- 私たちは、苦しみや悲しみの多いこの世から死を通して全て解放されるあの世にある神の国・天国に行くと考えがちです。しかし、神の贖いの計画を信じ、キリスト共に死にキリストと共に生きるクリスチャンは、既にこの世にあって神の国を歩んでいるのだと聖書は語ります。
- イエスがこの世にお出でになり、「悔い改めよ。時が満ちて、神の国は近くなった」(マルコ1/15)と福音を宣言され、弟子たちも同じようにその福音を宣べ伝えたときから、神の国はスタートしたと聖書は語っています(マタイ12/28)。
- そして、十字架による贖いとキリストの復活の福音を信じ、この世にあって新しい人として神の支配の下で生きるクリスチャンは、悪の働くこの世にあって既に神の国を歩んでいるのです。ですから、私たちは罪に支配される必要も死を恐れる必要もないのです。
- その福音宣教のために神は教会を作り、全世界にその福音を伝えることを私たちに委ねておられます。その意味で現在は教会の時代であると言われる。その委ねられたものが完了したとき、キリストの来臨を迎え、キリストに似た者とされて復活させられ、主と顔と顔を合わせる約束の時を迎えます。
- 「千年王国」や「終末」については、聖書にはその時に何が起こるかについては多くのことが記載されていても「いつ」起こるか、どのような時間経過で起こるかについては明確には記していません。それは「父なる神だけが知る」(マタイ24/36)とイエスは宣べています。
- しかし、私たちクリスチャン一人一人が、「神の国に生きる者とされている」という生き方を日々の生活でどれだけ証ししているだろうか。そうすればこの世にもっと大きな変化をもたらされるのではないかと教えられています。
- 寒いこの時期、皆さんが健康が守られて、日々元気で過ごされますように祈ります。

### 先月の多くの恵みから

- ① 新年に多くの方々から祈りのこもった年賀状で励ましをいただき心から感謝いたします。
- ② 神の憐れみによって発足した私たちの「石巻祈りの家」も9年間の活動、その間に発生した東日本大震災の時も、5年間にわたりその支援活動を皆さんの支えによって守られてきたことを感謝しています。この4月より10年目の活動に入ります。忠実な歩みと地域宣教のために祈りながら奉仕できるように祈り下さい。

- ③ 1/8の礼拝に松浦 賢兄が秋田の親族の方の葬儀に出られ帰路の途中に出席下さり、よき交わりと励ましをいただきました。
- ④ 1月は、体調が悪くIMN(石巻ミニストリー・ネットワーク)/第6回3.11東日本大震災追悼記念会準備委員会、毎週土曜日の「馬っ子山早天祈祷会」など外部との関わりの会議に出席できませんでした。阿部の回復のためにお祈り下さい。
- ⑤ 献堂された石巻福音自由教会で昨年4月より奉仕されてきた高橋勝義師の牧師就任式が1/29の午後に行われました。石巻の南東部での福音伝道のために労されます。
- ⑥ 94才になられたDean師のお母様が危険な状況との連絡が入り、先生は急遽渡米し訪問されました。守られたとのことで感謝しました。
- ⑦ 会員の大平姉が、脳に腫瘍があることが判明し、1/25に緊急の検査手術を受けました。今後、最善の診断と治療がなされるようにお祈り下さい。
- ⑧ 1月も皆さまの尊い献金によって教会活動と支援活動が支えられたことを感謝します。
- ⑨ 3/12の礼拝でCrash Japanの永井敏夫師にメッセージの奉仕をいただけることになりました。継続してのご奉仕に感謝します。

### ■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

- ① 大平姉が適切な診断と治療を受けられるように。
- ② 「3.11東日本大震災追悼記念会(3/11気仙沼・3/12石巻)」の準備のために。
- ③ 教会の地域から真剣に求道する人が起こされますように。市民救霊のための馬っ子山早天祈祷会が祝されるように。

群の定期集会	
・礼拝(毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会(毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time(第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」(第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸(第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援(地域の子どもの要望に応じて)	

### 信仰を詠う

#### 2月 さよならしたい自我

白髪染め やめて素顔が示される  
嫌いな自分、ひとつ削がれたかも  
ごめんね、と謝ることば減りました  
頑固と呆けのデュエット奏でる  
ありがとう、と言いきれなくてひと休み  
沈黙の時間、神様に請う



**阿部 八重子**  
駄目人間の自分をつけた時、神様に頼り歩かせてもらいました。歩みつつも変わらない自分に呆れ信仰の危うさを知らされます。そんな自分をつめた日々です。

# 1月に来訪・訪問した方々と教会活動の様子、3.11追悼記念チラシ・恵み



12/19 召天されて鈴木和世姉が生前に手配して送って下さった「啓翁桜」が今年も満開に満開に咲き、新しい若葉も出し始めました・・・



1/29 「石巻福音自由教会」で奉仕されている高橋勝義師と明美夫人の牧師就任式が行われました 1/29 精木先生から自宅のキンカンが 3.11大震災追悼記念会案内チラシ・ポスター



1/26 コーラス「花」の練習風景/3月に地域の介護施設訪問予定 いのちのパンと賛美のCDが届きました 1/8 松浦 賢兄礼拝出席後に 1月は石巻も寒い日が続いています

大震災を覚える追悼記念  
**愛と希望のコンサート**  
この日、「愛と希望」を奏でる音楽とともに追悼のひと時を。悲しみを乗り越え、繋がり合い、励まし支え合いながら歩めるように。

2017 **3/11** 日  
開場: 1時30分  
開演: 2時00分  
終演: 4時00分  
入場無料

コンサート①  
気仙沼第一聖書  
バプテスト教会  
平野 0207  
宮城県気仙沼市宮野2-250-3  
TEL: 0226-21-5192(教会)  
0207-732-9478(事務所)

2017 **3/12** 日  
開場: 2時30分  
開演: 3時00分  
終演: 4時30分  
入場無料

コンサート②  
釜会館  
平野 0207  
宮城県石巻市築山1丁目6-18  
TEL: 0226-3394-1351(中継)

主催: 宮城三陸3.11東日本大震災追悼記念会準備委員会  
後援: 東北ヘルプ

## アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在りの意

恵みを数えて感謝し、新たな望みを持って

### 「家の教会」10年目に向かって (2)

キリスト教会「石巻祈りの家」代表 阿部 一

9年前にこの「祈りの家」の群をスタートするに当たって確認したことは「聖書の神を神として(この世で)誠実に生きる」ということであった。悪が支配するこの世で「現実の日々を神の国(神の支配)に生きる」ということは、生半可な決意では出来ないと主は言われた(ルカ9/23-27、57-62)。それは自分の死(十字架)を背負って歩む道である。しかし、神の国の福音はそれに優る恵みと祝福である。

「種まき」の譬えで主が明らかにされたように、人間はいとも簡単に目の前の誘惑に会えばその尊い宝を捨ててしまう現実を数多く見てきたので、このことがしっかり理解でき、受け入れ、従う者でなければならないと教えられた。

そのためには、福音の恵みと主の十字架の愛がどれほどのものであるかを実感できるまでに心に刻み、感謝を持って自由な心で主に従う必要がある。特に牧師のいない群では、聖書をよく学び、問題が生じても自分の思いを優先するのではなく聖書から判断し互いに励まし合って信仰生活を送ることが大切だと示された。加えて、自らの歩みが歪むことのないように、信頼して指導していただけるメンターとしてSBS校長の森谷正志師にお願いすることとした。

毎週の礼拝メッセージは、神の備えて下さったCGNTVやFEBCなどで放送されている多くの牧師のメッセージを録音し、最初の2年くらいはそれを文字に起こしたもので確認しながらテープでそのメッセージを聴いた。そして事前にそのメッセージのポイントを質問形式で問うレジメを作り、メモをとりながら聴き、礼拝後にそのことについて率直に話し合った。水曜日の祈り会では、信仰について聖書のガラテヤ人への手紙から、教会についてドライバー著「教会：キリストの共同体」、キリスト教についてジョン・ストット著「これがキリスト教です」、交わりについてリック・ウォーレン著「Better Together (人生は一緒の方が良い)」、そしてC.S.ルイス著「キリスト教の精髓」、桜井園郎著「使徒信条」、祈



りについては鞭木由行著「だから、こう祈りなさい(主の祈り)」、現在はキャンベル・モルガン著の「十戒」を藤本満師の「十戒」の説教テープと抱き合わせで学んでいる。今回は「ハイデルベルグ信仰問答」を学びたいというのが会員の希望である。この学びを通して、会員はその信仰生活にしっかりと軸を培ったと思う。

小さい群であっても、外部に「捧げる」群でありたいと願った。そこで、自分たちの信仰生活の成長を見える形でもWVJを通してラオスの少女の成長をサポートするスポンサーとなることを決めて、手紙等の交流をしながら支援してきた(残念なことに2016年ラオス政府が子ども達へのサポートを禁じたので、直接スポンサーチャイルドに届く日を祈りながらラオスでの働きのために継続して捧げている。)この姿勢は、この大震災で具体的な形で表された。

大震災直後、交わりのある献堂して間もない気仙沼FBBCが津波によって教会堂もろとも全てが失われた。そのことを知って祈っている中で、神は私に「彼らの集会場所を確保せよ」と命じられた。そして、阿部兄の印刷所の半分を

用いるイメージまで与えられた。会員10名に満たない小さな群で、私たちもこの大震災で被害を受けていたのでそれを経済的に負担することは明かに無理である。ところが、驚いたことに次の日の祈り会の後で、会計から「この3年間で100万円ほど蓄えがあるが、これは神様のものだから蓄えておくよりも用いた方がよい。そこで、この蓄えの半分を気仙沼FBBCに捧げたい」という提案があり、全員の賛成が得られ、早速届けられた。その後、更に驚いたことは、新会堂が献堂されるまでに気仙沼の教会は神が私に与えたイメージの如く印刷所の半分がリフォームされて集会所として用いられていた。それだけでなく、海水で使用できなくなったその場所にあった印刷機等の搬出に丁度50万円を要したと阿部兄より知らされた。Amazing!と神を賛美した。

今回の大震災では、私たちの群も国内外の教会やクリスチャン、支援団体から支えられて、被災地の教会として支援活動をさせていただいた。その捧げられた物資や支援金は神から被災者支援や支援活動のために預かったものとして、通常の教会活動とハッキリ区分して用いさせたいいただいた。

そして、その支援活動の中でも、神は「祈りに答える神」として働かれて、私たちの信仰に目に見える形で応えて下さった。生きて働かれる神は、私たちの信仰を強めてくれた。(その恵みの幾つかを続けて証ししたい。)